第３２１回　令和８年１１月２日（月）

「想像力について」

私の祖父はビニールでできた怪獣のおもちゃを作る工場で働いていました。今考えると不良品だったのかもしれませんが、たまに足が逆についた怪獣の人形などを持ってきてくれました。

そのおかげでたくさんの怪獣が押し入れにしまってありました。今も持っていれば結構な価値が出たのかもしれないと思います。小学校に上がる前はその人形たちで遊んでいました。
人形の出演した怪獣のテレビ番組を直接観ていないので、怪獣たちに強い者、弱い者、怪獣の中でも凶悪なもの、正義の味方など、自分のなかで勝手に役付けをしていました。

このときに培った想像力は今の読書と相性が良いと思います。文章を読み場面を想像しながら本を楽しむわけです。文章自体や行間から様々な思いを巡らせて読書という冒険を体験しています。

想像力のネガティブな面は、文章を読みながら考えすぎてしまうことです。例えばＬＩＮＥで家族から短文が送られてくると「怒っているのではないか」「悲しんでいるのかな」など暴走気味に思い込んでしまうことがあります。

若い人は「やばい」の一言で「まずい」とか「すごい」とか様々な表現をしますよね。考えすぎてしまう人間にとっては悩みの種だったりします。複数の意味があるとスッとやりすごすことができなくなってしまいます。むしろスタンプでキャラクターの表情がついていることで安心したりもします。

今の若者は役割がしっかり決まっているアニメやキャラクターを観て育ってきたのかもしれません。若者の本離れは幼少期に想像力をあまり必要としなかったことに起因している可能性もあります。だから時短で動画を観ることが流行している、なぜなら結末の分かっているアニメ映画を何回も繰り返し観てきたから…かもしれませんね。

化石を見て悠久の時に思いを寄せたり、星を見て宇宙の神秘を感じたりすることは楽しいことだと思います。一方で情報が聞きたくなくても溢れて頭に入ってくる情報過多の現代においては考えすぎてしまうことで神経が疲弊することがあるかもしれません。

楽観、悲観の両方で未来を想像することは大事だと思います。これからは将来が予測困難な時代になります。想像力があることがＡＩを凌駕する武器になるかもしれません。
情報を一切遮断して雲を見ると色々な形に見えてきます。それだけで落ち着いた気持ちになるのは不思議なことです。疲れた時には良い癒しになります。